

| | | |
|-----------|---|---|
| 科目名 | 専門演習 I B | |
| 担当者 | 平手 賢治 / HIRATE, Kenji | |
| 科目情報 | 法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| 科目概要 | 授業内容 | <p>専門演習 I A (平手) の続きです。専門演習 I A と同じく、経営学だけでなく、形而上学、倫理学、法学、政治学、経済学も視野に入れた、手作りの問題を配布し、各班単位で報告を發表してもらいます。報告は、解説調ではなく、フロアとのディベートを重視します。1月にはゼミ論文の提出を義務付けます。</p> <p>対象者としては、民間への就職希望者だけでなく、大学院進学、法科大学進学、公務員試験、各種資格試験、企業、政治家等あらゆる分野にわたって、夢をもって努力する元気な人なら、過去の学業成績等にこだわらず、大歓迎します。そして、ゼミを大学生活の中心に位置づけ、年2回のコンパ、ゼミ旅行、司法見学などのゼミの活動・大学行事に積極的に参加する方も大歓迎です (ゼミ費として、年間3万から3万5千円程度に費用 (毎月積立) が掛かります)。</p> |
| | 到達目標 | <p>専門演習 I Aにおいて身につけた「ディベートに耐え、法的思考力を身につけること」に加えて、さらに、それぞれの進路希望に応じて、各自の目標を達成できることを目指します。</p> |
| 授業計画 | <p>(1) オリエンテーション (ゼミ役職決定、グループ分け、研究発表の日程調整、自己紹介など)</p> <p>(2) グループ発表とディベート (ゼミ生の勉強量や活発な発言によって変化する)</p> <p>(3) //</p> <p>(4) //</p> <p>(5) //</p> <p>(6) //</p> <p>(7) //</p> <p>(8) //</p> <p>(9) //</p> <p>(10) //</p> <p>(11) //</p> <p>(12) //</p> <p>(13) //</p> <p>(14) //</p> <p>(15) //</p> | |
| 自学自習 | 事前学習 | <p>授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解してください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。</p> |
| | 事後学習 | <p>授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。</p> |
| 使用教材・参考文献 | <p>【教】・【参】教科書は特に指定しませんが、配布問題ごとに参考文献を指定します。なお、事前に読んでおくよい文献として、以下のものを挙げてあげておきます。①M. サンデル著 (鬼澤忍訳) 『これからの「正義」の話を生よう—いまを生き延びるための哲学—』 (早川ノンフィクション文庫、2011年)。②P.F. ドラッカー著 (上田惇生訳) 『ドラッカー名著集10 産業人の未来』 (ダイヤモンド社、2008年)。</p> | |
| 成績評価方法と基準 | <p>平常点として、発表・グループ作業の成果等をみます。特に、授業中の発言 (推理力、判断力、他人の話を正確に理解する能力の有無等) をみます。</p> | |
| 備考 | <p>専門演習 I A (平手) を受講した方は、引き続き必ず本講座を履修すること。</p> | |